

「父に生きた人！！」 ～つぶやく人々！！～

出エジプト16章

■ 私たちの目線

高梁のあたりを車で走っていると、ある橋のところに鉄道を愛好し趣味とする鉄ちゃんといわれる人がたくさんいたのです。やくものラストランを撮るために集まっていたのです。鉄道関係にもたくさんの細かいこだわりがあり、鉄道撮影を楽しむ「撮り鉄」、鉄道に関する音を楽しむ「音鉄」、時刻表を読み、ダイヤを分析・研究することを楽しむ「読み鉄・時刻表鉄」などなどがあります。

鉄道ミステリー「点と線」のドラマがありますが、作者は、一つものにこだわっていくと見えないものが見えてくるというのです。聖書に書かれていることも同様に、見えるものばかりに物事を見ているとわからないことがたくさんあります。見えないものに、実は宝が隠されています。しかし、多くの人は、隠れたものを見出すよりも、目の前にあるものや、自分にとって聴きやすい言葉、現実的な富や財産、安心を求めるための蓄え、このようなものの方が手っ取り早く私たちの人生を安堵に導けるのではないかと感じてしまいがちですが、もったいないことです。私たちの目線はどこを向いているのでしょうか。

■ 父に生きた人

父に生きるとき神の計画が成し遂げられるポイント

- ① 失敗や苦難を益として成長させる神
あきらめず 向き合う
- ② 尊敬を受ける生き方へ
自己と決別 知恵による行動 聞き従う 決断
- ③ 意味を見出だす道
苦しみ方を変える道 フランクル
- ④ 絶対に曲げてはいけないこと
妥協 芯を曲げない 関係を築く
- ⑤ 呪いを祝福に変える神
恐れと不安 怒りと嫉妬
赦し → 和解=回復

■ 父に生きた人！！つぶやく人々！！

インドとパキスタンの国境で英兵が交代する時に毎日行われていることの例えから、人はこのように自分を大きく見せたり、威嚇したり、自分を強く見せたりすることがあります。私たちも同じようなことをしていることが多いのではないのでしょうか。イスラエルの民も、自分の本心ではない態度をとり続けました。エジプトから解放され、自由を手にしましたが、荒野での厳しい生活に不平、不満を言い、つぶやき続けました。人は、近しい人、家族、親子等に対して、つぶやいてしまいます。私たちは、この言葉により影響を受け、多くのことを損しています。イスラエル人が奴隷であったとき、モーセとアロンにつぶやき嘆いていたことは、神様に聞かれていたのです。

私たちも、毎日毎日どのように生きるか考えなければいけないのです。大した時ではなく、日常生活の中で、小さな出来事の中で、私たちは不平、不満をつぶやいているのです。それを神様に試みられているということを聖書は教えているのです。聖書に、わたしのおしえに従って歩むかどうかを試みるためである。と書いています。悪の試みとは違い、神の試みは、あなたに任せて良いのか、任せるにふさわしいのか、良心が保たれているのか、神の教えに聞き従い、信頼し続けるかを試されているのです。毎日自分の心の中に良いものを蓄えておかねばならないのです。イスラエルの民が、このように何度も何度もつぶやいて失敗したのは、モーセの言うことを聞かなかったからである。イエスキリストの恵は、集めてたくさん取っておいでもいけないのです。毎朝それを受けなければ意味がないのです。私たちは、どこに目を向けているのでしょうか。どれほど物に執着しているのでしょうか。なんで私たちは聞けないのでしょうか。

■ 頑なな人々！！つぶやく人々！！

頑なな人々の要素

・不安→貪欲

いつも心の中に不安があります。不安は危険な要素で私たちを貪欲にし、不安は貪欲をあおります。安心を得るために、もっと蓄えておきたいのです。

しかし、聖書では、「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。」と書かれています。

私たちは、不安という言葉から自由にならないと、頑なさやつぶやきが直らないのです。不安から行動している人はいないのでしょうか。不安だからやっておこう、不安だからこうしようとしていませんか。

・自己中心→批判 誇張

つぶやきは自己中心であり、自分の主義・主張を通すために、大げさに、また事実と違うことを言うのです。そして、自分の意見を通そうとするのです。

自己中心というのは、批判と誇張です。

・聞かない→言葉選び

人の話を聞けない、聞かないということは、変化が起こらないのです。変化が起こらないということは、その人の人生が良くなる訳がありません。だから、言葉を選ばなければいけないのです。

・見えるもの

いつも見えるものに目を向けるのではなく、私利私欲ではなく、見えないものに目を留めなければなりません。

不安の解決のために、私たちの心の中にある不安を取り除かなければならないのです。私たちは、つぶやくことをやめるかどうか今日、試されているのです。

■ ウィリー・ミリック君とゲーテファウスト

ウィリー・ミリック君は、強盗目的で誘拐され、そのとき、助けてと叫ぶのではなく、賛美は神様のもの、感謝、喜び、嬉しい等、すべての賛美は神のもの、というようにずっと賛美し続けました。犯人は、この子が賛美し続けるのが嫌になって解放し、この事件は、15分で解決しました。

ゲーテが書いた小説「ファウスト」、この男性は、研究家で学問を勉強して調べつくして、わからないものはどうしてもわからないということがわかり、失望しました。そして、自分はどれだけ手に入れても、成功しても満たされることはないということ、どれだけ学んでも限界があることを知ります。

世の中には、目線というものがずいぶん違います。いろんなものを頑張って調べても失望していく人と、例えば苦難の中にあっても、信じて、崇める賛美をする人とその結末はずいぶん変わっていきます。私たちは選ぶことができます。つぶやくこともできるし、感謝することもできます。

イスラエルの民が感謝し続けていたら、どれほど祝福された人生があったことでしょうか。家庭の会話を一日の感謝で終えたら、どれほどその家は豊かになるでしょうか。人を批判する人生より、人の徳を高めることを言う人生を選んだらどれほど祝福されるでしょうか。私たちは、つぶやくのをやめて、感謝することを選んだほうが良いのでないのでしょうか。

さいごに

私たちはいつも不平不満をつぶやいています。

お金や物欲に目を向けていること、人を悪く言うてはいけない、人を愛すること、赦すことは、良く知っているのです。聖書に、聞くことはすべての始まりである。信仰は聞くことから始まり、聞くことはイエスキリストによると書かれています。知っているけど、聞かないのです。聞けないのです。

イエスキリストは、無罪の罪をきせられて黙って十字架に向かい、自分に剣を向けてくるものを愛し、赦し、神様に聞き従いました。私たちも、生き方を変えていけるように、頑なさや執着しているものを捨て、つぶやくことをやめ、感謝することです。

(要約者:西寄 達也)

(2024年7月21日)